

一 広 告



金井 喬嗣 (かない たかし)  
金沢工業大学大学院工学研究科  
環境土木工学専攻  
博士前期課程二年  
群馬県前橋育英高等学校出身

# 先生と学生そして学生同士の 距離が非常に近いキャンパスです。

その理由が何であれ、受験の過程で進路変更するのは、学生生活を大きく左右する。首都圏の化学系の大学から金沢工大へ。金井さんは四学科に合格したが、就職が一〇〇パーセントと聞いて環境土木工学科を選んだ。そして、まったく予測しなかった領域で新しい出発をしようと思ったのである。

「専門はゼロからのスタートで、

何を学ぶのも新鮮でした。鹿田先生には学部一年の測量学の授業で出会いましたが、群馬県の保護者会にいらしたこともあって、親しみを持ちました。先生は、ただただ真面目、そして自分で何かをしたいと思えば、学生の意志を尊重してくれます。ニューデリーで開催されたアジアのリモートセンシングの国際学会(ACRS)での

口頭発表も、その一例です。」

指導教授の鹿田正昭先生の専門は空間情報工学。現在は副学長として、また北陸地方の地理空間情報に関する産学官の連携推進など、学内外で大活躍。金井さんは、生涯の恩師とめぐり逢うことになったのだが、彼もひたすら真面目だから、と思うのだ。

「修士の研究は『山間域におけるGNSSからの衛星信号の受信状況に関する基礎的研究―地籍調査の効率化に向けての提案』なんです。難しいのは、法律面に触れずに技術面だけで進められるかということなど。だれもおもしろいところかな。山麓の景色や集落の暮らしを知る貴重な体験でした。」  
論文計画書を前にして白山白川郷ホワイトロードでの実験の状況を聞いていると、こちらもワクワクしてくるから不思議。金井さんにはリーダーシップがある。生来

のものか、淡々とした口調なのに、巻き込まれていくのだ。

「この大学は学生を見捨てない。どんなときでもカムバックできるシステムがあり、先生が助けてくれる。それに学生と学生の距離が近くて、互いに頑張り合う場所が充実しています。ほとんどが大学の周辺に住んでいるので。それから、いくつかの授業では当日の夕方、学部一年から修士二年まで、学生が得意分野を教え合う教室があって、好評なんですよ。アクティブラーニングの一環ですが。」  
就職は業界大手の朝日航空に内定。就職に強いKITを実証したのは、金井さん自身に他ならない。それは、「空間情報プロジェクト」など独自の仕掛けに積極的に取り組むキャンパスがおのずから招いた成果とも考えたい。

**金沢工業大学**  
石川県野々市市扇が丘七丁目  
電話番号(076)248-1100

KIT  
キャンパス  
レポート  
文・出島二郎  
マーケティングプランナー